

企画セッション

◆ 医療情報の二次利用における課題 ◆

<日時> 令和4年11月5日(土) 14:00 ~15:30

【講演者等】

<講演>

山本隆一 (医療情報システム開発センター 理事長)

<パネリスト>

康永秀生 (東京大学大学院医学系研究科 教授)

山口育子 (COML 理事長)

岡田美保子 (医療データ活用基盤整備機構 理事長)

石埜正穂 (札幌医科大学医学研究科 教授)

<座長>

山本隆一、石埜正穂

【概要】

医療情報の集積とAI活用は、医療提供の最適化に資するばかりでなく、新しい診断・治療法の開発に大きく貢献する潜在性を持つ。医療系のアカデミアにおいて、外来・入院患者の日々の診療、レジストリ研究や臨床研究、あるいは健康診断等によって集められた医療情報、すなわちカルテ・レセプト、看護記録、お薬手帳データ、あるいは検査・病理診断・画像データ等々は、まさに医学研究の貴重なリソースでもあるし、知的財産ともいえる。すなわち、今後の医療研究・医療開発の有効な推進は、それら医療情報をいかに有機的に二次利用できるかどうか依存しているものといえる。しかし意味のある二次利用のためには、医療データの標準化や構造化、名寄せ(分散する情報の集積・一元化)、インフォームドコンセント、個人情報保護、セキュリティーの問題など、乗り越えなければいけない大きな課題が山積している。本セッションでは、そういった課題について整理を行うとともに、それらを解決するための工夫や努力について考察したい。

企画セッション

◆ 医療情報の二次利用における課題 ◆

【略歴】

山本隆一（医療情報システム開発センター 理事長）

大阪医大医学部卒業、医学博士。同病院医療情報部助教授、東京大学大学院情報学環准教授を経て2012年から現職、2014年4月より自治医科大学客員教授を兼務。2007年～2019年Ⅱ品医療情報学会会長、2019年から厚生労働省匿名医療情報等の提供に関する専門委員会座長など。2016年より次世代医療基盤法認定事業者匿名加工医療情報公正利用促進機構理事長を兼務。専門は医療情報学で、医療情報の利活用の促進と患者等の権利保護を専門にしている。

康永秀生（東京大学大学院医学系研究科 教授）

東京大学医学部医学科卒業、医学博士。東京大学大学院医学系研究科医療経営政策学准教授などを経て、2013年より同研究科臨床疫学・経済学教授。日本臨床疫学会理事、総務省統計委員会専門委員、厚生労働統計の整備に関する検討会構成員。専門は臨床疫学、医療経済学。大規模医療データベースを用いた臨床研究、医療経済・政策研究に従事。

山口育子（ささえあい医療人権センターCOML 理事長）

1965年大阪市生まれ。自らの患者体験から、患者の自立と主体的な医療への参加の必要性を痛感していた1991年11月COMLと出会う。活動趣旨に共感し、1992年2月にCOMLのスタッフとなり、相談、編集、渉外などを担当。2002年4月に法人化したNPO法人ささえあい医療人権センターCOMLの専務理事兼事務局長を経て、2011年8月理事長に就任。社会保障審議会医療部会をはじめとする数多くの厚生労働省審議会・検討会の委員を務めている。

岡田美保子（医療データ活用基盤整備機構 理事長）

ネブラスカ大学大学院計算機科学修士。医学博士(新潟大学)。新潟大学教養部・統計学講師、同助教授、川崎医療福祉大学・医療情報学科教授などを経て2018年5月より現職。2013～2016年医療情報学会理事長。情報系の人間がどうすれば医療に役立てるのかと医療情報の道を歩き続け、現在は医療データベース構築支援、医療データの標準化対応など実務として取り組む。ヘルスデータ利活用時代の医療情報倫理について改めて考えることの多いこの頃である。

石埜正穂（札幌医科大学医学部先端医療知財学 教授）

札幌医大大学院博士課程修了。米セントルイス大学分子ウイルス学研究所研究員、札幌医大附属がん研究所講師、同大医学部衛生学講座准教授を経て、2011年より現職。同大附属産学・地域連携センター開発部門長を兼務。AMED知的財産有識者委員、medU-net 運営委員長、ARO協議会知財専門家連絡会代表者、知財学会学会誌編集・企画委員など。医療分野の知財・開発研究戦略、産学連携等を専門とし、実務と研究を行っている。